

楽しく 見て 学ぶ 博物館

徳島県立博物館

No.84

Museum News

ニュース

震災後の世相を

風刺した戯画



鯨絵 あらし大日安にゆり直す (加藤茂弘氏蔵)

神様が
ナマスを
こらしめているよ



江戸時代には、地下の大鯨が暴れて地震が起こるとの考えがありました。安政江戸地震(1855年)は幕末の江戸で起きた地震で、大きな火災をともしない、約1万人が亡くなる大惨事となりました。この直後に、地震や鯨を題材に世相を風刺した戯画が江戸で大流行しました。これが鯨絵です。鯨絵からは、巨大な震災に見舞われながらも、落ち込んだり悲しんだりするだけではなく、風刺を込めたり、災害を笑い飛ばしたりする幕末の江戸庶民のたくましい姿をみることができます。

鯨絵「あらし大日安にゆり直す」では、地震を鎮める鹿島大明神が、大鯨を要石でおさえつけており、鯨たちが謝罪しています。鯨たちは、「人にうらみはないが、ちかごろ泥鰻が人気で鯨料理の人気なくなつた。くやしくて動いたら思わぬけが人が出た。今後は砂の中にもぐって動きませんから、どうかご勘弁を」という意味のことを言っています。

(地学担当：中尾 賢一)

大塩平八郎と徳島あわのくに～大塩のルーツは阿波国!?～

松永 友和

大塩平八郎(1793～1837)は、今から174年前に、いわゆる「大塩平八郎の乱」を起こしたことで有名です。大塩平八郎と聞いて、「ああ、知っている。授業で習った」という方もおられるでしょう。しかし、大塩と徳島との関係をご存知の方は、それほど多くはないと思います。

大塩は大坂町奉行所与力(大坂の行政・司法などを担当した役人)を務めたため、代々大坂在住の武士のように思われますが、実は阿波・徳島と深い関係がありました。

1 大塩平八郎の紹介

まず、大塩平八郎の人物紹介をしておきます。

大塩は寛政5年(1793)に、大坂町奉行所与力・大塩敬高(1770～1799)の長男として生まれます。幼くして両親を亡くしたため、祖父の大塩政之丞成余(1751～1818)によって育てられました。

15歳になると、大坂町奉行所与力の見習いとして勤務します。与力としての大塩の活躍ぶりは目覚ましく、難事件を次々と解決していきました。

しかし、35歳の働きざかりのときに与力を辞職します。それは、理解ある上司が大坂町奉行の職を辞職したためでした。

その後は、私塾「洗心洞」において子弟の教育に力を注ぐとともに、陽明学者として名を馳せ、『洗心洞笈記』や『古本大学刮目』などを著します。

2 「大塩平八郎の乱」

天保期(1830～1844)になると、全国的な飢饉が起こります(天保飢饉)。大坂の町にも多くの貧民が集まり、餓死者が続出しました。その惨状を目の当たりにした大塩は、原因は大坂町奉行所の政策にあると考えます。

当時の大坂東町奉行の跡部良弼(水野忠邦の実弟)は、飢饉の最中、残り少ない大坂の米を江戸に輸送しようとしたのです。跡部は江戸の幕閣(老中の一に水野忠邦がいました)の指示に従ったにすぎませんが、大塩は跡部に対して怒り心頭に発しました。そのことは、乱直前に発せられた「檄文」の「先ず小役人を誅伐すべし」という文言から読みとれます。



図1 大塩平八郎像(大阪歴史博物館蔵)

肖像画の横には渾天儀が描かれている。大塩は天文学に興味を持ち、毎日午前2時に起き、天文の観測を行ったという。

そして、天保8年(1837)2月19日早朝、大塩は決起し、「救民」の旗を掲げ、門弟の与力や大坂周辺の百姓らとともに蜂起したのです。もともと大塩は、幕府に対して反乱を起こす意図はなかったものと考えられますが、幕府は大塩らの行動を「乱」と捉えます。現在、歴史的用語として「大塩平八郎の乱」が使われるゆえんです。

蜂起はわずか一日で鎮圧されますが、以後、公然と幕府批判が展開されるようになり、乱から30年後に幕府は滅びます。その意味で「大塩平八郎の乱」は、歴史的な大事件だったといえます。

3 大塩平八郎と徳島

さて次に、大塩と徳島との関係について見ていきましょう。実は、大塩平八郎の祖父政之丞成余は阿波国の出身でした。

政之丞は、徳島藩家老稲田氏の家臣で、阿波国美馬郡岩倉村新町(現、美馬市脇町)の真鍋元右衛門の次男として生まれます。幼少の頃に、同じ稲田氏の家臣・塩田鶴亀助(?~1761)の養子となり、のちに大塩家に養子として入ります。塩田家は稲田家の用人(財務・記録などを管理した家臣)を勤めた関係で大坂と繋がりがあり、塩田鶴亀助の娘(誠月院)は大塩家四代・左兵衛に

嫁いでいました。しかし、左兵衛家には子がなく、左兵衛の死後、政之丞が大塩家の養子として迎えられたのです。政之丞が大塩家の養子となった背景には、大塩家と塩田家との姻戚関係があったのです。

ところで、大塩平八郎の祖父政之丞の出身は阿波国ですが、平八郎本人も同じく阿波国の出身とする説があります。しかし、平八郎が大坂町奉行所与力・大塩敬高の実子と認められる史料(国立史料館編『大塩平八郎一件書留』)が見出されたことにより、現在、平八郎の出身は、大坂・天満とみるのが通説になっています。大塩平八郎の阿波国出生説は、政之丞と平八郎が混同されたことが原因のようです。

今回は、大塩と徳島との関係について、平八郎の祖父政之丞が脇町の出身であることを紹介しました。その意味で、大塩のルーツは阿波国と言えるでしょう。このような徳島と大坂との武家の交流は、大塩家以外にも見られたのかもしれませんが。今後は、その点を調べてみたいと思います。

(歴史担当)

参考文献：相蘇一弘『大塩平八郎書簡の研究』(清文堂出版、2003年)



図2 進軍する大塩勢を描いた図『出潮引汐奸賊聞集記』より(大阪歴史博物館蔵)
大塩勢は「救民」の旗を掲げ、大砲を放ちながら進軍した。その結果、大坂・天満は火の海となり、大坂市中の約5分の1が焼失した。

わー！
びっくりした





日本列島は世界的にみても地震が際だって多い地域です。日本では地震を避けて生活することはできないため、古来から地震と人々の生活の結びつきは深く、すでに江戸時代には地震や地震に伴って発生する津波を描いた絵画や瓦版などが多く出版されています。地震は、断層が動くことによって起こる現象です。山地や湖などの地形をつくる大きな要因でもあり、四国山地は数多くの地震によって形づくられたともいえます。

この企画展では、地震が起こる原因、地形にみられる地震の痕跡などを紹介するとともに、鯨絵や南海地震の瓦版など、江戸時代以降の地震に関する絵画資料も数多く紹介します。

主催 徳島県立博物館・兵庫県立人と自然の博物館
会場 博物館企画展示室(1階)
会期 10月21日(金)～11月27日(日)
時間 9:30～17:00
休館日 毎週月曜日
観覧料 一般200円 高校・大学生100円
 小・中学生50円

※20名以上の団体は2割引

※土・日及び祝日は小学生・中学生・高校生無料

※学校教育での利用は無料

関連行事

- (1) ナマズウシ大戦! 講談+立版古めりえ ワークショップ
 日時 10月23日(日) 10:30～、13:30～
 場所 博物館講座室(3階)
 講師 河南堂珍元斎氏(兵庫県立人と自然の博物館地域研究員)
 定員 各回15人(事前申込みが必要です。8ページを参照してください) **参加無料**
- (2) 動く断層ペーパークラフトを作ろう
 日時 11月3日(木) 10:30～、13:00～、
 14:00～、15:00～の4回
 場所 博物館常設展示室および博物館実習室(3階)
 講師 加藤茂弘氏(兵庫県立人と自然の博物館研究員)
 定員 各回25人(当日受付) **参加無料**
- (3) 鯨絵めりえ
 日時 11月3日(木) 9:30～16:00
 場所 博物館企画展示室前の通路
 定員などはありません **参加無料**
- (4) 野外見学会 地震と津波の跡を見よう!
 日時 11月13日(日) 7:30～18:00
 場所 高知県室戸岬および海陽町浅川
 講師 中尾賢一(博物館学芸員)
 対象 小学生から一般まで(小学生は保護者同伴)
 定員 45名(事前申込みが必要です。8ページを参照してください)
 その他 文化の森発着、貸切バスを使用します **参加無料**

(5) 展示解説

日時 10月30日(日)、11月6日(日)、11月20日(日)
 いずれも14:00～15:00
 場所 博物館企画展示室(1階)
 講師 中尾賢一(博物館学芸員)
 備考 企画展観覧料が必要です

地震の神サマ ナマズウシ
 河南堂珍元斎氏による、
 この企画展のマスコット
 キャラクターです。



鯨絵 地震雷過事親父(加藤茂弘氏蔵)



津波碑 慶長南海地震(1605年)と宝永南海地震(1707年)の被害状況を刻んだ石碑(海陽町鞆浦)



野島断層 兵庫県南部地震(1995年)で活動し、地上に現れた断層(兵庫県淡路市)

イモの収穫日としての社日

しや にち

「社日」とは、春分、秋分にもっとも近い戊の日のことをさします。徳島県では、農業・土地守護の神である「お地神さん」をまつる日としてよく知られています。県内のほとんどのムラには、地神塔が見られます。これは、江戸時代に、『神仙霊宝春秋社日醮儀』という書物の序文をもとにして、地神塔を立てることがすすめられたためだとされています。このため、春秋の社日に行われてきた習わしとして、もっともよく聞かれるのが、ムラでおまつりする地神祭で、そのほかの社日の習わしについては、あまり詳しく調べられていないように思います。

私は、徳島にやって来る前、4年間程、サトイモとヤマイモの収穫儀礼についての聞き取り調査に夢中になっていたことがありました。一般に、イモの収穫儀礼は、「芋名月」などの言葉があり、八月十五夜か九月十三夜とされています。ところが、高知県で聞き取りをしていた時に、秋の社日をイモの収穫日としている地域がかなりあることに気づきました(図)。

高知県では、春秋の社日に徳島のように地神のお祭りをするような例はあまり聞かれませんでした。そのかわり、春の社日を農作祈願の日とし、秋の社日を収穫感謝の日としてそれぞれ各家がお供えものをすると言います。図に見られる秋の社日にイモを供える地域では、例えば「春の社日には作物を植え、秋の社日にはお礼

をすると言う。秋の社日には、里芋、甘藷、栗をゆがいてあちこちの神(村の氏神、金比羅、和霊など)にお供えする。」(四万十町地吉奥組大正5年生 女性)、「秋の社日には、掘り始めとって、甘藷、里芋を必ずお供えする」(いの町津賀谷 生年不明 女性)、などという話が聞かれました。なぜ、これらの地域で秋の社日がイモの収穫日とされているのかわからないままでした。ところが、近年、森本嘉訓氏の三好市西祖谷山村重末陰・重末日浦・冥地での地神祭についての報告から、「根付きのサツマイモ(秋の社日)」を供える伝統が守られてることを知り、徳島県内でも秋の社日をイモの収穫日としていた所がかなりあったのではないかと思うようになりました。その土地でよくとれる作物を社日の供物としているだけかもしれませんが、何か意味があるようにも思えます。

もし、県内で社日のお地神さんのお祭りに、必ず里芋、甘藷、或いは山芋をお供えする、もしくは、秋の社日をイモの掘り始めとするといった話を聞いたことがあるという方は、筆者までお知らせいただくと幸いです。

(民俗担当：庄武憲子)

参考文献：研究会事務局編「地神信仰」に関する社日行事・調査報告(『徳島地域文化研究』第7号、徳島地域文化研究会、2009年)

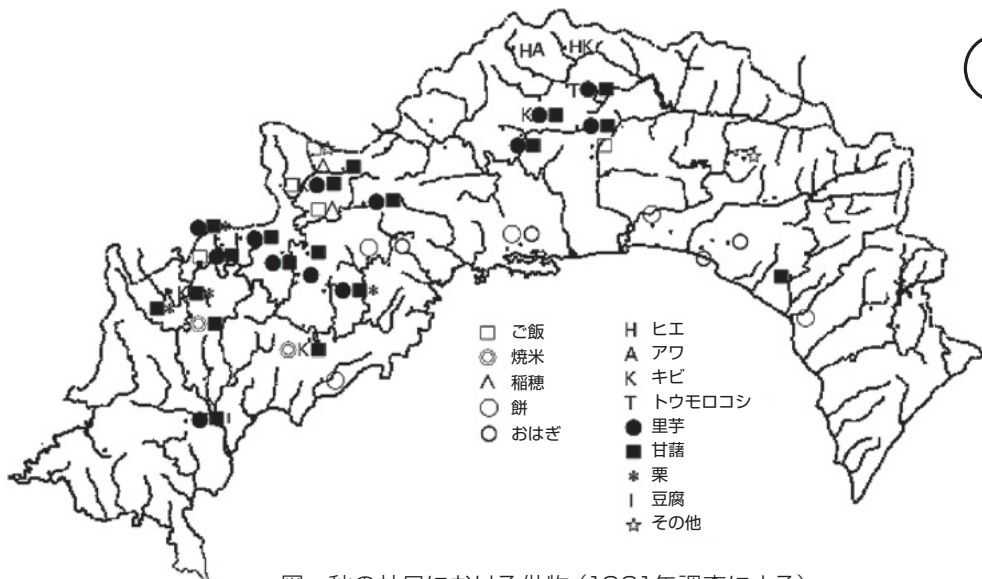
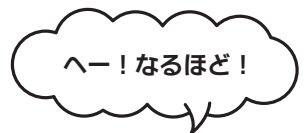


図 秋の社日における供物(1991年調査による)



穴吹駅から三島の古墳

博物館では普及行事のひとつとして、年に2～3回、古墳見学を行っています。昨年、美馬市穴吹町をひとつのコースとして採用し、非常に評判が良かったので、この地域の古墳を簡単に紹介します。

JR 徳島線の穴吹駅の南、穴吹高校のすぐ裏の山を登ると、戎、尾山の2古墳があります。山道を西へとしばらく進むと三島の町並みに下りていきます。ここでは、三谷古墳や三島小学校の裏山の三島古墳群を見学できます。

どの古墳も直径10m前後の円墳で、棺を納める玄室と通路である羨道からなる横穴式石室を持つ、6世紀後半の後期古墳です。戎古墳、尾山古墳は南に開口しており、三谷古墳と三島古墳群(1号墳、2号墳、3号墳)は北に開口しています。三島1号墳(図1)は前方後円墳と考えられていましたが、2001年の調査により2基の円墳と考えられるようになりました。

吉野川中流域の後期古墳の横穴式石室は、天井がドーム状で中央部が高くなり、側壁は中央部でふくらむか、奥に行くほど広がっています。これらの横穴式石室は、美馬市・つぎ町を中心に分布する段の塚穴型石室と、吉野川市山川町を中心に分布する忌部山型石室に大きく分けられます。二つの石室の大きな違いは、段の塚穴型石室では奥壁と側壁とが、角を持ちほぼ直角に交わり、天井部の高まりが急であるのに対して、忌部山型石室では奥壁と側壁とが、角にならず丸く収まっており、天井部も緩やかに上がっていることです(図2)。

穴吹町の古墳の横穴式石室は段の塚穴型石室に分類されています。このタイプの石室の中では古いと考えられている美馬市美馬町の大国魂古墳と同様に、玄室の幅が奥行よりも長く、横長の場合もあります。また、床面付近は奥壁と側壁とがしっかりと角を持っていますが、天井に近づくほど丸みを帯びており、段の塚穴型石室と忌部山型石室の両方の特徴をあわせ持っています。

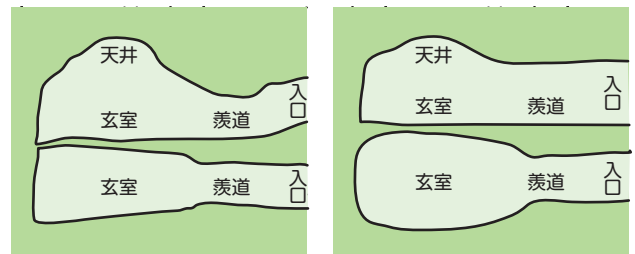


図2 石室模式図

段の塚穴型石室の断面図(上)と平面図(下) 忌部山型石室の断面図(上)と平面図(下)

穴吹駅から三島小学校までは4km足らず、ゆっくり歩いて1時間あまり、山道からの吉野川の眺めは最高です(図3)。三島の町並みも趣があり、時間のたつのも忘れてしまうほどです。町並みの途中、少し脇道にそれると、サハリン探検や教育分野で活躍した岡本韋庵の自宅跡や石碑等も見学できます。三島古墳群で折り返して穴吹駅まで帰ってきてまだ時間があるようなら、穴吹橋を渡って脇町に入り、拝原古墳群なども見学に加えれば、充実した古墳見学の1日となることでしょう。

(館長：高島芳弘)



図1 三島1号墳の玄室



図3 尾山古墳付近から吉野川北岸を望む



ピカピカに光る^{どうたく}銅鐸や^{せいどうきょう}青銅鏡が展示されていますが、あれはホンモノですか？

常設展示の部分的なリフレッシュに伴い、総合展示「ムラからクニへ」の銅鐸の展示コーナーと古墳の展示コーナーに、ピカピカの銅鐸と顔を映すこともできる青銅鏡の展示をはじめました。

青緑色に錆びた銅鐸が多く並ぶ展示ケース内に、一つだけピカピカの銅鐸が展示されているので違和感を持たれたことでしょうか。あの銅鐸は、実物資料(ホンモノ)ではなく、実物の銅鐸をくわしく調査した結果をもとに、見た目はもちろん、材料も忠実に再現してつくられた「復元品」です。遺跡から出土する銅鐸は長い間地中に埋まっていたために、サビで覆われ、青緑色に見えますが、もとは復元品のような金色に輝いていたのです。

青銅鏡も同じく材料を再現して作られたもの

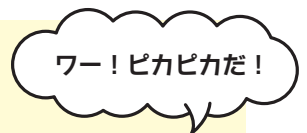
です。古墳などから出土する青銅鏡は、裏面にさまざまな文様や銘文が描かれているため、博物館などでは、ほとんどの場合裏面を見せるように展示しています。時々、「どうしてあんなモノが鏡なの？」という質問を受けることがあります。錆びる前の表面(鏡面)は、展示されている復元品のように、顔を映すことができるものだったのです。

復元品と似たものにレプリカ(複製品)がありますが、レプリカは実物資料(ホンモノ)から型取りして、見た目を忠実に再現した資料です。それに対して、復元品は実物資料の本来の姿を再現したもので、レプリカとは異なります。

銅鐸や青銅鏡のつくられた当時の姿を見て、その時代の人びとに思いをさせてみてはいかがでしょうか。(保存科学担当：魚島純一)



復元銅鐸の展示(左が復元銅鐸、右は復元鋳型)



復元青銅鏡の展示(左は出土した青銅鏡の複製)

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
歴史体験	土器づくり②(焼成) [①とセット]	10月16日(日)	10:00~15:00	要	小学生から一般(30)	
	ミニ青銅鏡をつくろう	10月23日(日)	13:30~16:30	要	小学生から一般(20)	材料費300円 (大学生・一般)
	ベーゴマをまわしてみよう	12月4日(日)	13:30~16:00	要	小学生から一般(30)	材料費100円 (大学生・一般)
歴史散歩	伊島を歩こう	10月30日(日)	8:00~15:45	要	小学生から一般(20)	現地集合
	古墳見学(鳴門)	11月13日(日)	10:00~15:00	要	小学生から一般(30)	現地集合
	眉山山麓寺社めぐり(北麓編)	12月11日(日)	10:00~12:00	要	小学生から一般(20)	現地集合
野外自然かんさつ	白亜紀の地層見学(阿南市羽ノ浦)	10月2日(日)	13:00~16:30	要	小学生から一般(25)	現地集合
	河口の生きもの	10月9日(日)	9:30~11:30	要	小学生から一般(60)	現地集合
	秋の植物と昆虫	10月16日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(20)	
	植物観察ハイキング	11月20日(日)	10:00~15:30	要	小学生から一般(15)	
室内実習	顕微鏡で野草かんさつ	10月30日(日)	13:30~16:30	要	小学生から一般(20)	
	古代文様のミニ土版をつくろう	11月20日(日)	13:30~16:00	要	小学生から一般(30)	
	木の葉化石の発掘体験	12月18日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(30)	材料費100円 (大学生・一般)
	藍の押花ではがきづくり	12月23日(金)	13:00~15:00	不要	小学生から一般(200)	
みどりの工作隊	どんぐりごまとウツギの笛をつくろう	11月6日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(36)	
	リースをつくろう	12月11日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(30)	
部門展示関連行事	部門展示「中生代の化石」展示解説	11月27日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要 (大学生・一般)
企画展関連行事	ナマズウシ大戦! 講談+立版古めりえワークショップ	10月23日(日)	10:30~、13:30~	要	未就学児から一般(各15)	
	企画展「描かれた地震」展示解説	10月30日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要 (大学生・一般)
		11月6日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要 (大学生・一般)
		11月20日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観覧料必要 (大学生・一般)
	鯨絵めぐりえ	11月3日(木)	9:30~16:00	不要	未就学児から一般	
	動く断層ペーパークラフトを作ろう	11月3日(木)	10:30~13:00~、 14:00~15:00~	要	未就学児から一般(各25)	当日申込受付
	野外見学会 地震と津波の跡を見よう!	11月13日(日)	7:30~18:00	要	小学生から一般(45)	文化の森養着、 貸切バス利用
文化の森大秋祭り	11月3日(木)	9:30~16:00	不要	小学生から一般		

◎小学生以下が参加する場合は、保護者同伴をお願いします。

普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
- ◎行事日の1ヵ月前から10日前までに必着で右記までお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入してください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。

往復はがき記入例

<往信の表面>	<返信の裏面>	<返信の表面>	<往信の裏面>
50 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館 普及課	何も書かないで ください	50 〒□□□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名(学年) 3.住所 4.電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館 普及課へ(電話 088-668-3636)

博物館友の会に入会しませんか！

博物館友の会は、さまざまな活動を通じて自然や文化に親しむとともに、会員相互の交流をはかっています。2011年度も楽しい行事が予定されています。みなさんも参加してみませんか？

■半年会費(10~3月) ・個人会員 1,000円 ・家族会員 1,500円

- 会員の特典
- ・年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。
 - ・友の会の楽しい行事に参加できます。
 - ・友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で買うことができます。
 - ・催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。

◆2011年度今後の行事予定

(友の会員だけの行事です。会員になればどの行事にも自由に参加できます。)

- 10月22日(土)~23日(日) 秋の山陽路一泊研修(岡山・広島)
- 11月20日(日) 義経伝説の道ウォーク・パートII(板野町~東かがわ市)
- 1月 ミニ青銅鏡を鑄造しよう
- 2月 トコロテンづくりII(実習)



「キャンプで自然体験」の様子

くわしくは友の会事務局まで(電話 088-668-3636)